

上海における地域素材を生かした社会科授業の実践

前上海日本人学校浦東校 教諭

熊本県熊本市立清水中学校 教諭 福 島 輝 浩

キーワード：地域素材，校外学習，副読本

1. はじめに

上海日本人学校はもともと1校であったが、5年前に二つのキャンパスを持つ学校となった。上海で生活する日本人駐在員の増加につれて日本人学校の規模もどんどん膨らみ、2006年に浦東（プードン）校が開校した。以前からあった虹橋（ホンチャオ）校は小学部のみ、浦東校には小学部と中学部とが併設された。（※2011年度からは、日本人学校初の高等部も設置された。）

上海市は1300万人を超える人が住む大都市であり、広域からバスで通学する児童・生徒も多いため、下校時刻を守ることで渋滞を避けなければならない。そのため、学年単位で下校時刻に影響するような特別時程を組むことが難しく、簡単に校外へ出かけることはできない。また、安全・防犯上の面からも、地域（学校近隣）で学習する機会は制限されてしまう。

日本とは異なる在外の特殊な環境の中で、子どもたちにどのようにして体験的な学習の機会を保障していくのか。ここでは、社会科における地域素材の開発という視点で、学校の取り組みや実践を以下に紹介する。

2. 上海日本人学校浦東校の取り組み

(1) 2010年度の校外学習活動状況

私の勤務していた浦東校では、開校当初から、様々な形で校外学習を実施している。

右の表は、2010年度に行われた校外学習および宿泊学習・修学旅行先の一覧である。校外学習については、登下校の時刻を変更することなく通常時程の中で行われている。

これらは全て、これまで上海日本人学校に派遣された先輩方が知恵を出し合い、開拓してきたものである。在外において、見学先を探し、学習計画を立てるのは容易ではなかったはずだ。その苦労を思いながら、子どもたちの学習が深まるように、現職員で計画を練り直し、実施をしている。

学部	学年	時期	内容	行き先
小学部	1年	5月	校外学習	世紀公園(学校近くの広大な公園)
		10月	校外学習	上海動物園
	2年	5月	校外学習	世紀公園※1年生と合同
		10月	校外学習	上海水族館
	3年	5月	校外学習	世紀公園
		7月	校外学習	上海科技馆(科学技術に関する展示館)
		11月	校外学習	明治製菓工場
	4年	2月	校外学習	消防署
		4月	校外学習	ごみ処理発電所
		8月	校外学習	上海歴史発展陳列館
	5年	11月	校外学習	共青森林公園(アスレチックなどの施設あり)
		10月	校外学習	新大洲本田バイク工場
		10月	宿泊学習	東方緑舟(キャンプ・教育施設)
6年	6月	修学旅行	北京	
中学部	中1	6月	宿泊学習	紹興・杭州
	中2	5月	宿泊学習	蘇州・南京
	中3	6月	宿泊学習	西安・敦煌
3月		校外学習	世紀公園	

(2) 副読本の作成と活用

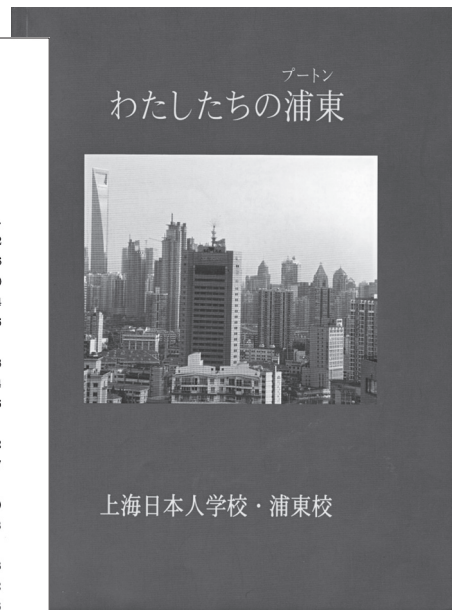
上海日本人学校では、4～5年おきに副読本「上海」を改訂し、主に小学部の社会科や総合的な学習の時間において活用してきた。2008年度に副読本「上海」六訂版の編集・発行に向けて、浦東校内においても企画会議が開か

れた。その際、今回の改訂を機に、浦東校独自の副読本「わたしたちの浦東」を発行することが決まり、編集委員を中心に、浦東校の全職員による新しい副読本づくりが始まった。

「わたしたちの浦東」初版は2009年11月に発行された。特に小学校3・4年生が社会科授業の中で活用しやすいように内容の構成が工夫されている。校外学習の訪問先が写真入りで取り上げられており、事前学習の際に活用しやすくなった。また、上海日本人学校の成り立ちや浦東校建設にあたっての様々なエピソードが盛り込まれ、地域素材が開発された内容となっている。更に、上海市に関する様々なデータも載せられている。

上海市・浦東地区の開発に伴う変化は目まぐるしい。次回改訂の際には、「上海の今」を盛り込みながら、在外で学習する子どもたちの学びを保障する副読本として更に進化していくことを期待したい。

副読本もくじ	
副読本『わたしたちの浦東』	初版の発行にあたって 1
【1】わたしたちのまち みんなのまち	
1 学校のまわり(浦東校) ……	2
2 市のようす ……	6
【2】人々のしごととわたしたちの暮らし	
1 スーパーマーケットではたらく人 ……	12
2 上海にあるいろいろな商店 ……	16
3 農家のしごと ……	20
4 上海の農業 ……	24
5 中国の農業と日本 ……	26
【3】くらしをまもる	
1 火事がおきたら ……	28
2 じこやじけんがおきたら ……	34
3 けいさつの人々のしごと ……	36
【4】住みよいくらしをつくる	
1 ごみとしょりと利用 ……	42
2 水はどこから ……	47
【5】上海のうづりかわり	
1 むかしを伝えるもの ……	50
2 日本人学校 ……	53
【6】わたしたちの上海市	
1 わたしたちの上海市 ……	58
2 くらしと土地の様子 ……	62
3 上海の工業 ……	66
4 上海市とわたしたちのまちの発展 ……	70
【資料】	
1 基礎データ ……	74
2 上海市内データ ……	81
3 日本人学校の歴史 ……	99
参考文献・編集にたずさわった人 ……	100



3. 実践

(1) バイク工場見学に向けて (小学部5年生での取り組み)

小学部5年生は例年、上海市にある新大洲本田摩托有限公司を訪れている。新大洲本田摩托有限公司は、中国企業である新大洲(「Sundiro」のブランドで知られる)と日本の本田(「HONDA」)が50%ずつ出資して設立された自動二輪工場である(当時は中国の法律により、工業分野においては外国企業の単独資本が認められていなかった)。工場内ではホンダの技術にもとづき、現地の労働力を生かして生産が進められ、製品のほとんどは「HONDA」ブランドで市場に出回っている。

バイク工場見学は、在外にある特殊性を生かし、日本の会社が現地で生産を進めている様子を学ぶ絶好の機会と言える。これにより世界に広がる日本の工場の一つに目を向け、日本が世界の人々と協力して工業生産を進めていることを理解させたいと考えた。校外学習で何を見て、何を学ぶべきかについて子どもたちへの動機づけを図るために、学年3クラスで事前の社会科授業を展開した。

【授業後の児童の感想から】

- 日本でつくって輸送するのではなくて、現地で作るといのはなるほどと思いました。
- 中国でつくったバイクが、日本にも輸出されているなんて知らなかった。
- 9月に新大洲本田というバイク工場に行くのはすごく楽しみです。「なぜ、本田はオートバイ工場を上海にもつくったのでしょうか」という質問に意見がいっぱいあったので、こんなにいろいろな理由があるんだと思った。
- 日本の会社がほかの国でつくっているということは、(日本の製品が)人気があるからだと思います。だから、これからも世界の人々と協力しあって、いろんな車やバイクを生産してほしいです。

(2) ごみ処理発電所見学（小学部4年生での取り組み）

4年生の社会科において「ごみのしよ理と利用」について学習した。日本と中国とでは、一般家庭におけるごみ分別の方法が異なっており、生活の中で環境問題に対する意識の違いを感じることも多い。授業を進めるにあたっては、その違いに着目するのではなく、ごみ処理の共通点やリサイクル活動に目を向けられるよう教科書と前述の副読本「わたしたちの浦東」を併用して事前学習を進め、ごみ処理発電所への校外学習へ出かけた。

「上海浦発集団 御橋ごみ処理発電所」は浦東校からバスで20分ほどのところにある。1990年代に浦東新区におけるごみ処理施設の中心として着工され、2002年に稼働を始めた。ごみを燃やす際に発電を行い、灰を圧縮するなどの最新の技術を用いている。

社会科の授業の中で、どんなことを見学したいかについて児童に整理をさせ、見学に臨んだ。まずは、模型を使ったごみ処理の流れについて職員から説明を聞いた（事務スタッフによる通訳あり）。次に「中央制御室」を見学した。ここでは、ガラス越しに山積みされたたくさんのごみと、それを運ぶ巨大なクレーンを見ることができた。

なお、上海の現地校では、ごみ処理の現場を子どもたちに見せるような校外学習は行われていないようである。「香港の学校が日本人学校と同じように見学に来たことはある。しかし上海市内の学校は来たことがない。上海の学校もごみ処理発電所を見学に来るべきだ。」と職員が話していた。

校外学習後には、班ごとに「ごみしよ理新聞」作成の取り組みを行った。ちょうど現地校の教職員が来校し、その授業の様子を参観していたため、ごみ処理発電所の存在を知っているか尋ねてみた。存在そのものは知っていても、やはり児童を引率して行ったことはないということだった。



【見学後の児童の感想から】

- 本物のもけいの100倍以上の大きさだということを初めて知りました。きかいがコンピュータのとおり動いていたので、とてもくふうされていると思いました。
- いろいろ見たことがないきかいなどがはたらいて、かんきょうをよくしているのだと思いました。
- 思った以上にゴミの量が多かった。クレーンはゲームみたいだった。クレーンをほくもやってみたくと思いました。
- クレーンのそうじゅうが思ったよりシンプルだったのでびっくりした。クレーンがものすごく大きかった。人間もつかめそうだった。くふうしているきかいが何こもあった。もけいの100倍のゴミがあった。
- とっても大きいUFOキャッチャーみたいなものでゴミをはこんでいました。そこに大きな山がありました。ゴミしより場は日本とぜんぜんちがったので、びっくりしました。エレベーターの所は、日本のマンションのもえないゴミをおくところといっしょにおいだったので、びっくりしました。また、UFOキャッチャーを見たいです。
- ゴミ集め場には、ものすごくゴミがあり、びっくりしました。私はこんなにゴミがたくさんあるとは思いませんでした。私は「ゴミをへらせたらいいなあ」と思いました。リサイクルをしようと思いました。

(3) 歴史発展陳列館での校外学習（小学部4年生での取り組み）

「古い道具と昔の暮らし」の学習を4年生の2学期に実施する計画を立てた。学習への関心を高めるために、古い

道具の一つを見つけ、絵カードを作成する夏休みの宿題を出した。夏休み中は、一時帰国して両親の実家を訪れた児童も多く、祖父母に聞き取りをするなどして充実した取り組みができていた。2学期に入り、その絵カードを発表することで、学習の導入を図った。その後、教科書や副読本を活用しながら学習を進め、「上海市歴史発展陳列館」を訪れた。

「上海市歴史発展陳列館」は上海市のシンボルタワー「東方明珠塔」の1階にあり、多くの観光客が訪れる。上海市内の多くの現地校も参観学習のためにこの場所を利用している。陳列館の中は、大きく二つの展示部分に分かれている。前半は小さな漁村であった上海の昔の生活を再現し、後半は開港後の上海の様子がディスプレイされていた。欧米風の建築物や生活様式で様変わりした「モダン上海」の展示に児童は驚きの声を上げていた。ある児童は昔の農機具や鍛冶の道具などを熱心にメモしていた。また、100年ほど前の印刷機や蓄音機、電話機などを見つけ、実際に手を触れる体験をすることができた。

校外学習の後に、陳列館でのメモをもとにして昔の生活を調べ、まとめる活動に入った。図書室の本やインターネットを活用した調査を進める中で、日本と中国とで共通するものを多く見つけることができ、充実した学習活動を展開することができた。

4. おわりに

小学校学習指導要領解説社会科編 第1節 第3学年及び第4学年の目標の(2)には、「地域の地理的環境、人々の生活の変化や地域の発展に尽くした先人の働きについて理解できるようにし、地域社会に対する誇りと愛情を育てるようにする。」と記されている。また、第5学年の目標(2)においても、「我が国の産業の様子、産業と国民生活との関連について理解できるようにし、我が国の産業の発展や社会の情報化の進展に関心を持つようにする。」とある。

在外においてこれらの目標に迫る社会科授業を展開するためには、かなりの工夫が必要である。在外教育施設には日本全国から児童生徒、そして教員が集まっている。在外にしながら「地域」や「我が国」をどう捉えさせていくのか。在外の特殊な環境において社会科の授業を進めていくには、副読本や校外学習は欠かせないものとする。

浦東校の副読本や校外学習の形は、一朝一夕にできあがったものではない。上海に派遣された出会ったことのない多くの先輩方が地域素材を開発し、教材の改良を繰り返していただいたおかげである。3年の任期を経て帰国し、こうして実践をまとめてみると、改めてそのありがたさに気づかされる。

在任中、自分の担当学年の学習計画を立てる際には、必ず前年度や前々年度の資料に目を通すようにした。校外学習や授業実践の記録・資料は、後を受け継ぐ者にとって大変ありがたいものである。残された資料をもとに学習計画を立てることで、上海で出会った児童に対して充実した学習活動を提供することができた。

私自身は、授業の中でどのように副読本を活用していったかについての資料や新しく作成したワークシートを残し、帰国前に引き継ぎを行ってきた。先輩方の流れを受け継ぎ、上海における地域素材を生かした体験的な社会科授業が今後も続いていくことを期待する。